

新町・古町 町屋マークデザインワークショップ通信 vol. 1

市中央区の新町・古町界隈は、昔ながらの町屋が数多く残り、今でも城下町の風情を感じることができる地区です。

それらの町屋の保存・活用に取り組んでいる「新町・古町町屋研究会」の主催で、2014年の5月から8月にかけて、町屋のシンボルマークデザインのワークショップを開催しました。このワークショップでは、10軒の町屋と新町・古町それぞれのシンボルマークを、熊大、崇城大、県立大の学生30人が3人1チームになって作成します。デザインにあたっては、各大学の先生たちの指導を受けるほか、デザイナーの水戸岡鋭治さんにも審査員としてご参加いただきます。

第1回

町屋マークデザインワークショップ 2014年5月24日 於：早川倉庫、新町古町界隈

●参加者へのワークショップの説明 ●町屋見学 ●チーム分け ●ショートレクチャー ●オーナーヒアリング

1 5/24には第一回ワークショップとして、説明会や町屋見学などが行われました。説明会の会場となったのは明治10年に酒蔵として建てられた古町の「早川倉庫」。壁も床も天井も、柱も梁も、全て木造で非常に雰囲気のある空間です…。

3 町屋研究会のメンバーの案内にしながら、建物によっては実際にその中に入り「うなぎの寝床」とも言われる町屋の構造を見学させていただきました。学生さんたちももの珍しそうに写真を撮ったりメモを取ったり、興味津々です。中には、敷地の中庭に池があり、そこをコイが泳いでいるというお宅も！



2 説明会の後は、三つのグループに分かれて約20軒の町屋を巡ります。



4 二時間近い町歩きを終えて早川倉庫に戻ってきたら、次はおのおの担当する町屋を決めてチーム分けを行います。そして崇城大の森野晶人先生からマークデザインに関するショートレクチャーを受けた後、各チームに分かれて町屋のオーナーさんたちからお話を伺いました。各町屋の建物としての特徴の他、「あのへんはもともとお菓子屋さんが並んでた区画で…」 「あの建物は実は～ごろまでは染物屋さんで…」といった、それぞれの町屋の歴史的な由来も聴かせてもらいました。

この日に観た町屋の印象や聴かせてもらったお話をもとにイメージを膨らま、これからまずは各町屋のマークをデザインしていきます。なお、各町屋のシンボルマークは完成後、10月に開催される町屋スタンプラリーの際にも使用されます。

